

沖 裕子教授 研究業績一覧 1978－2020年

下記は2020年3月に信州大学人文学部を定年退職される沖裕子先生の研究業績一覧である。業績は、著書・論文・その他の3つに分類し、刊行年の順に排列されている。なお、先生の略歴を本文末尾に掲載した（編集担当）。

著書（報告書を含む。書籍掲載論文は別掲）

- 1980年『八丈島方言の研究』東京都立大学国語学研究室（共著：大島一郎・中田敏夫・成田徹男・加藤和夫・加藤久雄・木川行央・沖裕子・坂東多衣子・酒井恵美子）執筆分担：pp.133 pp.134-138 pp.139-141 pp.168-183 pp.199-200
- 1999年『どうなる日本のことば—方言と共通語のゆくえ』大修館書店（佐藤和之・米田正人編：共著）執筆分担：第1章 pp.18-29 第4章 pp.159-164 第5章 pp.218-224
- 2001年『応用社会言語学を学ぶ人のために』（ダニエル・ロング・中井精一・宮地弘明編：共著）執筆分担：第4章 運用からみた敬語 pp.42-53
- 2002年『東京・大阪方言の談話展開にみる接続詞の役割についての対照社会言語学的研究 その1・その2』科学研究費報告書（研究代表者：沖裕子） 307Pp. 353Pp.
- 2002年『方言文法ガイドブック』科学研究費報告書（研究代表者：大西拓一郎）執筆分担：pp.65-84 pp.103-108
- 2003年『朝倉日本語講座4 言語行動』（北原保雄監修、荻野綱男編）執筆分担：第4章 近隣社会の言語行動 pp.68-88
- 2005年『新「ことば」シリーズ18 伝え合いの言葉』財務省印刷局（国立国語研究所編）座談会 伝え合いの言葉（甲斐睦郎司会、沖裕子、箕口雅博、米川明彦） pp.11-27
- 2006年『日本語談話論』和泉書院 543Pp. 平成17年度日本学術振興会科学研究費補助金研究成果公開促進費による出版。学位請求論文の公刊。単著
- 2006年『方言における文法形式の成立と変化の過程に関する研究』科学研究費成果報告書（研究代表者：大西拓一郎）執筆分担：pp.69-80
- 2006年『方言文法ガイドブック2』科学研究費報告書（研究代表者：大西拓一郎）執筆分担：pp.69-80
- 2011年『大阪摂津方言若年層談話文字化資料 付CD-ROM：一部音声資料・文字化全電子データ』私家版（共著：中西彩乃・沖裕子）
- 2015年『跨文化理解与日語教育（異文化理解と日本語教育）』趙華敏主編 高等教育出版社：北京特別市 執筆分担：第4章 日本語依頼談話の特徴と日本語教育、国際共著／沖裕子・趙華敏
- 2016年『はじめて学ぶ方言学—多様性をとらえる28章』井上史雄・木部暢子編 293Pp. 執筆分担：第17章 テンス・アスペクト表現 pp.174-184

論文（雑誌掲載論文と書籍掲載論文の双方を混排。共著と記されていないものは単著。）

- 1978年「<類義語の意味論的研究>する・わかる」『日本語研究』第1号 東京都立大学国語学研究室 pp.123-133
- 1980年「共通語と方言の接触—共通語の価値について」『ことばの研究』第1号 長野県ことばの会 pp.1-10
- 1980年「八丈島末吉洞輪沢における待遇場面形成の要因」『日本語研究』第3号 東京都立大学日本語研究室 pp.88-97
- 1980年「共通語の規範的文体性と普及上の役割—「敬体本質性」について—」『都大論究』第18号 東京都立大学国語国文学会 pp.54-64
- 1981年「文法学習の目的とその意義づけ」『解釈』第27巻第5号 解釈学会 教育出版センター pp.53-57
- 1981年「東京都の方言分布」『日本語研究』第5号 東京都立大学日本語研究会 pp.48-63
（共著：木川行央・沖裕子・杉本武・石井直子・川崎裕子）＊『日本列島方言叢書 関東方言考（東京都）』ゆまに書房 に再録
- 1985年「動詞の文体的意味」『日本語学』第4巻第9号 明治書院 pp.110-124, 依頼論文
- 1986年「方言イメージの形成」『国文学』第63号 関西大学国文学会 pp.158-172
- 1988年「形容詞の文体的意味」『国文学』第65号 関西大学国文学会 pp.126-134
- 1988年「形容詞における口語と俗語」『花園大学国文学論究』第17号 花園大学国文学会 pp.1-11
- 1989年「人称代名詞と発話様式」『花園大学国文学論究』第18号 花園大学国文学会 pp.1-10
- 1991年「『国語辞典』に収録された「方言」」『日本語論考』大島一郎教授退官記念論集刊行会 桜楓社 pp.306-316
- 1992年「気づかれにくい方言」『月刊言語』第21巻第11号 大修館書店 pp.4-6, 依頼論文
- 1993年「談話型から見た喜びの表現—結婚のあいさつの地域差より—」『日本語学』第12巻第1号 明治書院 pp.44-52, 依頼論文
- 1993年「談話からみた東の方言／西の方言」『月刊言語』第22巻第9号 大修館書店 pp.44-51, 依頼論文
- 1993年「方言談話にみる謝罪的感謝表現の選択」『日本語学』第12巻第12号 明治書院 pp.39-47, 依頼論文
- 1993年「OCRとエディタ検索による個人的フルテキストデータベースの構築と活用」『花園大学国文学論究』第21号 花園大学国文学会 pp.1-21
- 1994年「方言談話にみる感謝表現の成立—発話受話行為の分析—」『日本語学』第13巻第8号 明治書院 pp.28-37, 依頼論文
- 1994年「話し言葉テキストの性格と電子化テキスト化」『情報処理学会研究報告』94巻45号 pp.29-30
- 1995年「接続詞「しかし」の意味・用法」『日本語研究』第15号 東京都立大学国語学研究室 pp.21-30
- 1995年「日本語教育と国語教育の接点—だ・である体の習得について—」『人文科学論集』

- 第29号 信州大学人文学部紀要 pp.131-144
- 1995年「京阪方言における「～ておく」の一端」『ことばの研究』第7号 長野県ことばの会 pp.35-46
- 1995年「勸めの依頼表現について」『日本語学』第14巻第11号 明治書院 pp.42-49, 依頼論文
- 1995年「気づかれにくい方言の隆盛と俚言使用の二相化」『変容する日本の方言』大修館書店 pp.86-96, 依頼論文
- 1996年「対話型接続詞における省略の機能と逆接—「だって」と「なぜなら」「でも」—」中条修編『論集 言葉と教育』和泉書院 pp.97-111
- 1996年「アスペクト形式「しかける・しておく」の意味の東西差—気づかれにくい方言について—」『平山輝男博士米寿記念論集 日本語研究領域の視点(上巻)』明治書院 pp.30-46
- 1997年「新用法からみた対話型接続詞「だって」の性格」『人文科学論集』第31号 信州大学人文学部紀要 pp.119-127
- 1997年「国内人の異方言・異文化接触—長野県松本市街地在住者の方言意識—」『内陸地域における文化の受容と変容』信州大学人文学部 pp.125-151
- 1998年「接続詞「あるいは」と「または」の意味について—談話展開機能の獲得にふれて—」『人文科学論集』第32号 信州大学人文学部紀要 pp.57-70
- 1998年「接続詞と接続助詞の「ところで」—「転換」と「逆接」の関係性—」『日本語教育』98号 日本語教育学会 pp.37-48
- 1998～1999年「チャレンジコーナー」『月刊言語』第27巻9～12号、第28巻1～2号 大修館書店, 依頼論文
- 1999年「気がつきにくい方言」『地域方言と社会方言』明治書院 pp.86-96, 依頼論文
- 1999年「特集 手のひらの言語学 日常言語をめぐる22の疑問に答える[愛できる][ごはんとライス][ていうか]」『月刊言語』第28巻第2号 大修館書店 pp.20-21 pp.60-63 pp.80-83, 依頼論文
- 2000年「アスペクトからみた動詞分類再考—「気づかれにくい方言」にふれて—」『人文科学論集』第34号 信州大学人文学部 pp.51-68
- 2000年「リレー連載 日本の方言探訪 長野編」『月刊言語』第29巻第5号 大修館書店 pp.67, 依頼論文
- 2000年「特集食べ物とことば 中部」『日本語学』第19巻第7号 明治書院 pp.67-69, 依頼論文
- 2000年「特集1998・1999年における国語学界の展望 言語生活」『国語学』第51巻第2号 国語学会 pp.96-107, 依頼論文
- 2000年「転勤族の子供の語彙形成」『徳川宗賢先生追悼論文集 20世紀フィールド言語学の軌跡』変異理論研究会 pp.173-180
- 2001年「生き残る気づかれにくい方言」『月刊言語』第30巻第1号 大修館書店 pp.74-81, 依頼論文
- 2001年「談話の最小単位と文字化の方法」『人文科学論集』第35号 信州大学人文学部紀要

pp.55-72

- 2001年「地域に生きる敬意表現」『日本語学』第20巻第4号 明治書院 pp.58-67, 依頼論文
- 2001年「日本語を媒介語とする国際学生交流—日本語教員養成論の立場から—」『日本語教育研究』信州大学人文学部沖研究室 pp.36-45
- 2001年「リソースとしての日本語教育実習」『日本語教育方法研究会会誌』pp.4-5（共著：合津美穂・沖裕子）
- 2001年「日本語教育学と方言学—学の樹立改変と談話研究への広がり—」『国文学 解釈と教材の研究』第46巻第12号 学燈社 pp.96-107, 依頼論文
- 2001年「中近畿アスペクトについて」工藤真由美編『方言のアスペクト・テンズ・ムード体系変化の総合的研究』科研費報告書 pp.61-76
- 2002年「日本語教員とは何か—戦後の日本語教員養成政策の観点から—」『信大日本語教育研究』第2号 pp.166-180
- 2002年「信州の日本語教員養成」『内陸文化研究』第2号 信州大学人文学部 pp.27-36
- 2002年「談話の方言学」日本方言研究会編『21世紀の方言学』国書刊行会 pp.235-246, 依頼論文
- 2002年「長野県方言における気づかれにくい方言の生成過程」『松高科学研究助成記念誌 研究成果報告書』 pp.99-100
- 2003年「日本語教育学と日本語教育—学の対象を整理する—」『信大日本語教育研究』第3号 pp.59-70
- 2003年「特集伝聞 方言の「聞き伝え」表現」『月刊言語』第32巻第7号 大修館書店 pp.55, 依頼論文
- 2004年「比喩の形式と意味—日本語教育のための基礎的研究—」『信大日本語教育研究』第4号 pp.2-15
- 2004年「同時結節のしくみと東京方言談話」『日本語文法』第4巻第1号 日本語文法学会 pp.93-110
- 2007年「談話論からみた方言と日本語教育」『日本語教育』第134号 日本語教育学会 pp.28-37
- 2007年「各地方言から見る『方言文法全国地図』中部（長野・山梨）方言」『日本語学臨時増刊号 方言文法全国地図をめぐる』第26巻第11号 明治書院 pp.180-181, 依頼論文
- 2008年「談話論からみた「文」と「発話」」串田秀也・定延利之・伝康晴編『シリーズ文と発話2 単位としての文と発話』ひつじ書房 pp.45-69
- 2008年「気づかれにくい方言「それで」」『山口幸洋博士古希記念論文集 方言研究の前衛』 pp.304-322
- 2009年「日本語教員養成課程の目的と現状および課題」『大養協論集』2008 大学日本語教員養成課程研究協議会会誌 pp.10-14
- 2009年「発想と表現の地域差」『月刊言語』第38巻第4号 大修館書店 pp.16-23, 依頼論文
- 2010年「日韓中の外言談話にみる発想と表現—日本語と日本語教育のための基礎的研究—」

- 『人文科学論集<文化コミュニケーション編>』第44号 信州大学人文学部紀要 pp.1-25
(国際共著:沖裕子・姜錫祐・趙華敏・西尾純二)
- 2010年「日本語依頼談話の結節法」『日本語学研究』28輯 韓国日本語学会会誌:ソウル
pp.119-136
- 2010年「発想と表現からみる日本語依頼談話のしくみと指導」劉曉芳主編『日本語教育与日
本語学研究』第5号 華東理工大学出版:上海 pp.182-186 (国際共著:沖裕子・趙華
敏)
- 2011年「日本語談話の発想と表現」『社会言語科学』第13巻第2号 社会言語学会会誌
pp.138-143 (国際共著:沖裕子・姜錫祐・趙華敏・西尾純二)
- 2011年「日本語談話種の分類方法」修剛・李運博主編『異文化コミュニケーションのための
日本語教育』pp.553-554
- 2013年「終助詞を用いた推量表現—談話論による松本方言の分析—」『人文科学論集<文化
コミュニケーション編>』第47号 信州大学人文学部紀要 pp.1-14
- 2013年「談話論からみた句末音調の抽出」『国立国語研究所論集』第5号 pp.77-94
- 2013年「書評論文」書評 井上史雄著『経済言語学論考—言語・方言・敬語の値打ち—』
『日本語の研究』第9巻第3号 日本語学会会誌 pp.90-95, 依頼論文
- 2013年「談話種変換からみた日本語談話の特徴—わきまえ・察し・見立て・仕立て—」『明
海日本語 第18号増刊号 井上史雄先生古希祝いオンライン論文集』明海大学日本語研
究室 pp.223-237
<http://www.urayasu.meikai.ac.jp/hjapanese/meikainihongo/18ex/default.htm/>
- 2013年「大規模方言談話資料にみる受話法の地域差」熊谷康雄編『大規模方言データの多角
的分析 成果報告書』国立国語研究所 pp.38-58
- 2014年「方言にみる頼みかたの表現と発想」小林隆編『柳田方言学の現代的意義—あいさつ
表現と方言形成論—』ひつじ書房 pp.125-142
- 2014年「談話論からみた命令表現」『日本語学』第33巻第4号 明治書院 pp.14-22, 依頼
論文
- 2015年「松本方言終助詞の文法体系:談話研究の基礎」『信州大学人文科学論集』第2号
pp.233-350
- 2016年「基調講演:異文化交流と日本語教育:中日依頼談話の違い」陳百海・趙華敏主編
『跨文化国際与日語教育研究(異文化交流と日本語教育研究)』黒龍江人民出版社:ハルビ
ン pp.3-20 [招待講演内容の記録]
- 2017年「談話論からみた松本方言の判断終助詞と通知終助詞」日本方言研究会編『方言の研
究』第3号 ひつじ書房 pp.217-238
- 2018年「日本語の談話構築態度—日韓相互の情緒的違和感を説明するモデルの検討—」『日
本語学研究』第55輯 韓国日本語学会会誌:ソウル pp.141-158 (国際共著:沖裕子・姜
錫祐)
- 2018年「依頼談話の発想と表現—異文化接触問題の解決をめざした日韓中対照談話論—」
『社会言語科学』第21巻第1号 社会言語学会会誌 pp.80-95 (国際共著:沖裕子・姜
錫祐・趙華敏・西尾純二)

- 2018年「長野県方言敬語の発想と表現—敬意終助詞が担う親しみと敬意—」小林隆編『コミュニケーションの方言学』ひつじ書房 pp.251-270
- 2019年「日韓中対照からみた日本語の談話構築態度—発想と表現の差を説明するモデルの検討—」『日本研究』第50輯 韓国中央大学校日本研究所：ソウル pp.65-88
DOI 10.20404/jscou.2019.02.50.00（国際共著：沖裕子・姜錫祐・趙華敏）
- 2019年「対照談話論からみた日韓の省略」『信州大学人文科学論集』第7号 pp.83-96
- 2019年「国際調査からみる日韓大学生の依頼談話意識」『日本語学研究』第62輯 韓国日本語学会誌：ソウル pp.97-115（国際共著：沖裕子・姜錫祐）
- 2020年「談話論からみた長野県北信方言の絶対敬語」『学海』上田女子短期大学，依頼論文 pp.3-21

その他（調査員・資料報告、辞書項目執筆、書評・紹介、エッセー、招待講演、口頭発表、教育業績、市民講座）

調査員・資料報告

- 1980年 社団法人長野県史刊行会調査委員
- 1980～1981年 国立国語研究所準地方調査員（『方言文法全国地図』作成 長野県内10地点を担当）
- 1991年「長野県松本市島立（町区）における祝言のあいさつ」方言研究ゼミナール『方言資料叢刊』第1巻 pp.91-96
- 1992年「長野県松本市島立（町区）の身体感覚を表すオノマトペ」方言研究ゼミナール『方言資料叢刊』第2巻 pp.54-59
- 1993年「長野県松本市島立（町区）における比喩語」方言研究ゼミナール『方言資料叢刊』第3巻 pp.61-66
- 1994年「長野県松本市島立（町区）方言のアスペクト」方言研究ゼミナール『方言資料叢刊』第4巻 pp.65-72
- 1995年「長野県松本市島立（町区）の否定の表現」方言研究ゼミナール『方言資料叢刊』第5巻 pp.65-69
- 1996年「長野県松本市島立（町区）方言の助数詞」方言研究ゼミナール『方言資料叢刊』第6巻 pp.88-97
- 1997年「長野県松本市島立（町区）方言の待遇表現」方言研究ゼミナール『方言資料叢刊』第7巻 pp.39-45
- 2000年「長野県松本市島立（町区）方言の副助詞」方言研究ゼミナール『方言資料叢刊』第8巻 pp.82-87
- 2004年「日本語の身体慣用語一覧」（沖裕子監修・信大日本語教育研究会有志）『信大日本語教育研究』第4号 pp.33-85
- 2004年「『国語学』特集学界展望「言語生活」昭和23（1942）年～平成14（2002）年」『2004年日本語教育国際研究大会ワークショップ・セッション7 日本語教育のための社会言語学』<http://www.nkg.or.jp/kokusai/2004/ws7sociolinguistic.pdf>
- 2006～2009年 国立国語研究所全国方言調査委員会委員

- 2009～2012年 国立国語研究所プロジェクト共同研究者（熊谷康雄代表「大規模方言データの多角的分析」）
 2010～2014年 国立国語研究所プロジェクト共同研究者（大西拓一郎代表「方言の形成過程解明のための全国方言調査」）

辞書項目執筆（執筆項目については単著）

- 1994年『類語新辞典』小学館
 1998年「全国方言一覧辞典」『月刊言語』第32巻第1号（長野県の項）
 2003年『小辞典 ふるさとのことば』三省堂（長野県の項）
 2002年『都道府県別 全国方言小辞典』明治書院（長野県の項）
 2007年『日本語学研究事典』朝倉書店（執筆項目：「長野県の方言」）
 2009年『全国方言辞典 CD 付』三省堂（長野県の項）
 2014年『日本語文法事典』大修館書店（執筆項目：「コンタミネーション」）
 2014年『日本語学大事典』朝倉書店（執筆項目：「気づかれにくい方言」「方言談話」）
 2018年『日本語学大辞典』東京堂出版（執筆項目：「個人語」「結節」「言語共同体」「談話論」「方言談話」）

書評・紹介（単著）

- 1989年「草壁焰太著『あなたも外国人のための日本語教師になれる』」『月刊言語』第18巻第1号
 1992年「中條修・篠木れい子著『六合村の方言』」「橋幸男著『神戸・和田岬の言葉』」『月刊言語』第21巻第9号
 1995年「彭飛著『「ちょっと」はちょっと…』」信濃毎日新聞 1月15日
 1996年「永井均著『翔太と猫のインサイトの夏休み』」信濃毎日新聞 8月25日
 1997年「鈴木孝夫著『教養としての言語学』」信濃毎日新聞 3月23日
 1997年「[話し言葉の文化的背景を探る] 千野栄一著『ブラハの古本屋』 宮岡伯人著『エスキモー 極北の文化誌』 馬瀬良雄著『信州の方言』」信濃毎日新聞 5月25日
 1997年「渡辺武信著『住まい方の実践』」信濃毎日新聞 4月6日
 1997年「梶田正巳著『異文化に育つ日本の子ども』」信濃毎日新聞 10月5日
 1997年「笹本正治著『子供たちと学ぶ妻籠城一戦乱の中の妻籠』」信濃毎日新聞 10月26日
 1998年「千野栄一著『ビールと古本のブラハ』」信濃毎日新聞 4月12日
 1999年「W.A. グロータース著『それでもやっぱり日本人になりたい』」信濃毎日新聞 7月11日
 2002年「井上史雄・鍵水兼貴編著『辞典＜新しい日本語＞』」『月刊言語』第31巻第13号
 2004年「佐藤亮一監修・小学館辞典編集部編『標準語引き日本方言辞典』」『月刊言語』第33巻第4号
 2005年「遠藤織枝他著『戦時中の話しことば—ラジオドラマ台本から—』」『月刊言語』第34巻第3号
 2007年「加藤広重著『日本語文法ハンドブック』」『月刊言語』第36巻第5号

エッセー（単著）

- 2004年「巻頭言 コミュニケーションの社会言語科学」『社会言語科学』第6巻第1号 pp.1-5
- 2006年「短期国際研修の目的と意義そして成果—相互交流の実現を通じて—」『信大日本語教育研究』第6号 pp.88-94
- 2006年「「私」の言語学」言語学出版フォーラム <http://www.gengosf.com/>
- 2008年「社会言語学の魅力」『社会言語科学会ニュースレター』第26号
http://www.jass.ne.jp/wp-content/uploads/2013/03/JASS_NL26.pdf
- 2008年「社会言語科学会第22回大会開催報告」『月刊日本語』アルク
- 2009年「リレー・エッセイ 私が言語学者になったワケ（その64）」『月刊言語メールマガジンくげんごろう』第73号 大修館書店
- 2012年「特集『日本語学』の30年 執筆者100人の歩み「談話論への一步」」『日本語学』第31巻14号 明治書院
- 2015年「馬瀬良雄先生と研究会、そして私」『ことばと文化』第7号 長野・言語文化研究会
- 2016年「馬瀬良雄先生との出会い」『馬瀬良雄先生追悼文集 思い出とともに』馬瀬良雄先生追悼文集編集委員会
- 2019年「新たに生まれるということ」放送大学長野学習センター機関誌『アルプス』110号
- 2019年「独りで勉強すること」『放送大学同窓会長野』第42号

招待講演・招待発表（共同登壇者記載以外は単独）

- 2004年 ワークショップ「日本語教育のための社会言語学」日本語教育学会国際研究大会（8月7日 杉戸清樹・沖裕子・高木裕子 於昭和女子大学）
- 2005年 テーマ講演「日本語談話論の構想」社会言語科学会第16回大会（3月19日 於早稲田大学）
- 2004年 座談会「伝え合いの言葉」国立国語研究所（甲斐陸朗司会、沖裕子・箕口雅博・米川明彦 10月2日）
- 2005年 シンポジウム「知られざる地域差を探る」第80回日本方言研究会（5月27日 篠崎晃一司会、沖・尾崎・沢木・友定 於甲南大学）
- 2007年 シンポジウム「日本語教員養成課程の目指すもの—一課程の学生にはどんな能力・資質の獲得が望まれるか—」大学日本語教員養成研究協議会（中川義男司会・根津真知子・沖裕子・齋藤ひろみ 10月5日 於国際基督教大学）
- 2008年 招待講演「同時結節という言語観」愛知教育大学国際教育学会（2月16日 於愛知教育大学）
- 2011年 JASSO 助成講演「日本語のアクセントとイントネーション」（9月23日 於中国青島農業大学 日本語専攻4年生対象）
- 2011年 JASSO 助成セミナー「日中対照日本語談話論からみた日本語教育の課題」（9月23日 於中国青島農業大学 大学日本語教員対象）
- 2011年 JASSO 助成講義「現代日本語の談話的待遇表現」（9月26日 於中国 北京大学 日本語専攻学部3年、大学院生対象）

- 2011年 JASSO 助成セミナー「日本語談話論の日本語教科書への応用に際しての課題」(9月26日 於中国北京大学 修士博士課程大学院生、日本語専攻教員対象)
- 2011年 招待講演「現代日本語における談話的待遇表現」待遇コミュニケーション学会(10月15日 於早稲田大学)
- 2014年 招待講演「日本語依頼表現の特徴—ていねいな依頼とはなにか—」インドネシア日本語教育学会ジャボデタベック支部・国際交流基金共催(3月1日 於国際交流基金ジャカルタ日本文化センター)
- 2015年 招待「基調講演 異文化交流と日本語教育—日中依頼談話の異同—」2015年異文化交流と日本語教育国際シンポジウム(8月29日 於中国 黒龍江大学)
- 2016年 招待講演「中信地方の敬意表現」(3月9日 於上田女子短期大学)
- 2017年 招待「企画招請講演 日韓対照談話論のこれから」(韓国日本語学会第36回国際学術研究大会(9月23日 於韓国 白石芸術大学))

口頭発表 (共同発表者記載以外は単独)

- 1979年 日本方言研究会「待遇表現における男女差—八丈島末吉洞輪沢集落の全員調査から—」5月11日 於大阪樟蔭女子大学『日本方言研究会第28回発表原稿集』pp.14-22
- 1992年 日本方言研究会「気づかれにくい方言—アスペクト形式「~かける」の意味とその東西差」10月18日 於金沢大学『日本方言研究会第53回発表原稿集』pp.21-30
- 1997年 日本語教育学会「転換の接続詞について」5月25日 『日本語教育』95号 発表要旨
- 1999年 国語学会「逆接について」5月30日 於同志社大学『国語学会平成11年度春季大会要旨集』pp.84-91, 『国語学』198号 p.28
- 2009年 第5回中国大学日本語教育研究国際シンポジウム「発想と表現のしくみからみる日本語依頼談話のしくみと指導」12月13日 於中国 同済大学 沖裕子・趙華敏共同発表
- 2010年 韓国日本語学会「日本語依頼談話の結節法」3月20日 於韓国 誠信女子大学 第21回研究大会
- 2010年 社会言語科学会「日本語談話の発想と表現」9月5日 於大阪大学 ワークショップ発表 沖裕子・姜錫祐・趙華敏・西尾純二 『社会言語科学会第26回大会発表論文集』pp.241-250
- 2011年 第10回世界日本語教育研究大会「日本語談話種の分類方法」8月21日 於中国 天津大学
- 2012年 大規模方言データの多角的分析公開研究会「談話資料論と研究の可能性—生活談話資料の活用—」3月19日 於国立国語研究所
- 2012年 第79回 NINJAL サロン「談話論からみた句末の音調と意味」3月19日 於国立国語研究所
- 2012年 大規模方言データの多角的分析公開研究会「大規模自然談話資料の活用可能性—表現法と受話法の観点から受話冒頭に着目して—」8月25日 於国立国語研究所
- 2012年 長野・言語文化研究会「松本方言の終助詞類—語義と談話表現—」10月20日 於松本市あがたの森文化会館

- 2012年 大規模方言データの多角的分析公開研究会「大規模方言談話資料からみた受話法」
12月16日 於全国町村会館
- 2014年 日本語教育国際研究大会2014「談話論からみた依頼表現と要求表現」7月12日 於
オーストラリア工科大学
- 2016年 日本方言研究会「談話論からみた長野県松本方言の判断終助詞と通知終助詞」5月
13日 於学習院大学 『第102回日本方言研究会発表原稿集』
- 2018年 長野・言語文化研究会「発想と表現からみた長野県方言の敬語—共通語敬語と比較
して—」2月10日 於あがたの森文化会館
- 2018年 第10回漢日対比語言学会「学術サロン発表 日韓中対照談話論の展望と課題」8月
17日 於中国 蘇州大学 沖裕子・趙華敏・姜錫祐

教育業績（教科書・特別講義・国際交流指導・研究雑誌編集、成果報告書、論文指導等）

- 2000年 [海外客員教員受入] 韓国釜山国立大学助教授1名
- 2000年 [国際学術交流協定締結] 信州大学・韓国カトリック大學校
- 2000年～2012年 [研究室交流実施] 信州大学日本語教育学沖研究室・カトリック大学日本語
専攻姜研究室（原則として年1回7日間、日韓で交互に学生交流実施。日本語教育教壇実
習、日本語スピーチ大会等々指導実施。）
- 2001年～2005年 [研究室雑誌編集刊行] 『信大日本語教育研究』第1号～第6号 ISSN
1347-3425 国際交流実施記録、日本語教育実習報告、卒業論文投稿等。
- 2002年 [教材監修] 『人文L8文集』
- 2002年 [特別講演] 「日本語を学ぶとはどういうことか」10月24日 韓国カトリック大學校
- 2003年 [成果報告書] 『インターンシップ海外日本語教育実習成果報告書』（インターンシッ
プ推進経費）
- 2003年 [教科書・共著] 『人文学部新入生ゼミナール統一テキスト』（信州大学共通教育セン
ター予算）
- 2003年 [成果報告書・共著] 『新入生ゼミのモデル構築』（信州大学教育研究改革・改善プロ
ジェクト経費）
- 2004年 [特別講演] 「比喩の形式と意味」10月30日 韓国カトリック大學校
- 2006年 [特別講演] 「アクセントとイントネーション」10月29日 韓国カトリック大學校
- 2006年 [教科書・共著] 『文化の記憶と記録』累積第3版 信州大学人文学部文化コミュニ
ケーション学科 執筆分担：「話しことばの世界」pp.81-86
- 2007年 [特別講義] 「日本語談話論」10月9日～17日 中国 北京大学外国語学院日本語専
攻学部・大学院生
- 2008年 [特別講演] 「会話と作文の日本語」9月30日 韓国カトリック大學校
- 2010年 [特別講演] 「国際交流の軌跡と日本語教育がめざすもの」11月5日 韓国カトリッ
ク大學校
- 2014年 [国際研修指導] インドネシア日本語教育研修（信州大学グローバル人材育成プログ
ラム・国際交流基金助成 2月27日～3月5日 学生6名参加）
- 2017年～2019年 [卒業論文投稿指導] 『ことばの研究』第8号～第10号（長野・言語文化研

究会)

1993年～〔修士論文指導〕計15冊

市民講座等

1994年 信州大学人文学部第10回夕べのセミナー「外国語としての日本語」12月

1999年 [NHK テレビ放送]「残したいふるさとのことば」7月～9月全5回 NHK 長野放送局

1999年 [NHK ラジオ放送]「残したいふるさとのことば」全国放送

2006年 市民大学講座「日本のことば再発見～方言と国際化する日本語～」2月21日 諏訪市公民館

2006年 市民大学講座「もう一度学びたい 日本のことば講座」10月13日、10月20日、諏訪市公民館

2006年 [進学講話] 10月26日 須坂高等学校2年生対象

2007年 [進学講話] 10月25日 須坂高等学校2年生対象

2007年 サロンあがたの森講演「話しことばの世界」5月19日 於あがたの森講堂

2012年 国際ソロプチミスト塩尻講演「異文化を理解するために」2月22日 塩尻市中村屋ホテル

2018年 八十二文化財団方言学講座「信州人の敬語」12月13日 於松本市勤労者福祉会館

2019年 八十二文化財団方言学講座「信州人の敬語Ⅱ」8月2日 於長野市 八十二別館研修室

2000年～ 信州大学市民開放授業

略歴

1977年3月 東京女子大学文理学部日本文学科卒業

1977年4月 東京都立大学大学院人文科学研究科国文学専攻修士課程入学

1980年3月 同 修了

1980年4月 東京都立大学大学院人文科学研究科国文学専攻博士課程入学

1986年3月 同 単位取得満期退学

1982年4月 非常勤講師（金蘭短期大学、大阪城南女子短期大学、羽衣学園短期大学、関西大学、同志社大学、期間略）

1989年4月 花園大学文学部専任講師（1992年3月迄）

1992年4月 同 助教授（1993年9月迄）

1993年10月 信州大学人文学部助教授（2002年3月迄）

2002年4月 同 教授（2015年3月迄）

2015年4月 同 学術研究院人文科学系教授（2020年3月迄）

2005年1月 博士（文学）・東京都立大学

非常勤講師・研究員等

1996年1月 筑波大学日本語日本文化学類非常勤講師（1996年3月迄・集中講義）

- 2000年4月 富山大学人文学部非常勤講師（2000年9月迄・集中講義）
- 2000年9月 国立国語研究所内地研究員（2001年3月迄）
- 2004年10月 愛知県立大学文学部非常勤講師（2005年3月迄・集中講義）
- 2007年10月 北京大学外国語学院日語系招聘講師（集中講義）
- 2012年4月 国立国語研究所外来研究員（2012年9月迄）
- 2019年4月 放送大学長野学習センター客員教授（至現在）

学会活動

- 1999年 日本語教育学会学会誌査読協力者
[名称変更後は日本語教育学会審査・運営委員]（至現在）
- 2000年 社会言語科学会学会誌編集委員（2006年迄）
- 2000年 日本語文法学会編集委員（2004年迄）
- 2001年 国語学会大会企画運営委員（2004年迄）[2004年から名称変更日本語学会へ]
2003年秋季大会（於信州大学）開催
- 2001年 日本音声学会会計監査（2004年迄）
- 2002年 日本方言研究会世話人（2008年迄）
- 2003年 社会言語科学会理事（2009年迄）
- 2003年 日本語学会評議員（2期2015年迄）
- 2006年 社会言語科学会大会委員（2007年迄）
- 2007年 社会言語科学会広報委員長（2009年迄）
- 2007年 韓国日本語学会編集委員（2011年迄）
- 2008年 日本語学会編纂『日本語学大辞典』第1期編集委員（2012年迄）
- 2011年 社会言語科学会発表賞選考委員（2013年迄）
- 2013年 社会言語科学会第32回大会実行委員長・於信州大学開催（2013年迄）
- 2013年 韓国日本語学会海外一般理事（至現在）
- 2015年 社会言語科学会発表賞選考委員（2017年迄）
- 2015年 長野・言語文化研究会代表（至現在）
- 2018年 日本語教育学会 学会活動貢献賞受章 [査読活動に対して]

社会活動

- 2001年 松本深志高等学校 学校評議員（2002年迄）
- 2001年 松本市図書館協議会委員（2001年迄）
- 2001年 松本市教育委員（2005年迄）
- 2008年 日本学術振興会科学研究費委員会専門委員 [第1段審査委員]（2009年迄）
- 2012年 日本学術振興会特別研究員等審査会専門委員、
同 国際事業委員会書面審査員（2014年迄、2015年～2017年迄）
- 2015年 財団法人八十二文化財団理事（2019年迄）
- 2016年 国立国語研究所外部評価委員（至現在）

外部資金獲得 (代表者受入のみ記載)

2000～2001年度 日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究 C 課題番号：12610429

2005年度 日本学術振興会科学研究費補助金成果公開促進費学術図書 課題番号：175115

2007年度～2010年度 日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究 C 課題番号：19520389

2011年度 日本学生支援機構帰国外国人留学生研究指導事業助成

2012～2014年度 日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究 C 課題番号：24520498

2015～2018年度 日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究 C 課題番号：15K02561

2018年度～ 日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究 C 課題番号：18K00609

以上